

Kunst im Katastrophengebiet

被災地における芸術

芸術家のネットワークである ARC>T は、北日本の潰滅した地域において演劇を上演し、トラウマをなくすのに役立とうとしている

文：Beate Wonde（ベアーテ・ヴォンデ）・Karin Nagao（長尾果林）

日本の東北地方での大地震・津波・原発事故による三重の大災害の 2 週間後、町の潰滅や一人ひとりの悲しみの最中、演劇関係者や芸術家たちは、自発的に、一つのネットワークを結成し、そのネットワークを ARC>T——アトリバイバルコネクション東北、と名付けた。まだ震災のショックから立ち直っていない中で、彼らは共に前を向き、演劇という手段を用いて人々に希望を与え、芸術家として、日本の東北地方における心の復興に特別な寄与をしようとしていた。そのためにはまず、すべての力が結集されなければならなかった。震災によって自らの生活を失ったすべての芸術家たちには、この大災害のトラウマを共に積極的になくすために、将来の見通しが与えられるべきであった。

今日、ARC>T の活動は、7 名の演劇制作者たち——俳優、舞台装置家、照明家、ダンサー、視覚芸術家たちが中心となっている。つまり、彼らは本来、組織的な任務を伴った経験がほとんどなく、その上さらに大災害の条件の下で働かなければならない。6 月以来復旧した仙台の演劇専用空間〔せんだい演劇工房 10-BOX〕の一部屋で、彼らは、自らの調整事務所を維持管理しているが、その事務所は同時にミーティングスペースであり、3 県〔岩手県・宮城県・福島県〕からの問い合わせを受理したり、客演を紹介したりしている。5 月に行われたインタビューにおいて、活動の草分けである鈴木拓氏〔ARC>T 事務局長〕は、次のように話した。「今のところ最も重要なのは、情報を収集し、それらの情報を関係者全員に伝えること、つまり、上手く機能するネットワークを結ぶことです。セーブ・ザ・チルドレン〔国際 NGO〕の援助のおかげで、1 台の“夢とらっく”を入手することが出来ました。積載面は、一面を手前に下ろすことによって、すぐに舞台へと変化させ、戯曲を上演することが出来ます。さらに、そのトラックは輸送手段でもあり、それに乗って私たちは、公園へ朗読会、紙芝居、能の上演あるいはダンスの上演をしに、あるいは曲芸〔ジャグリング〕や芸をしに——つまり、私たちに出来、憂鬱や絶望感を紛らし、希望を与えるような、まさにそうしたあらゆることを提供するために、遠く離れた場所へ行きます。」

鈴木拓氏は 37 歳の役者であるが、5 年前に仙台で小さな演劇専用空間を設立し、自らの活動に基づいて、“杜の都”（仙台の別称）の演劇祭の主催者として、コーディネーターを経験した。彼の同志の多くと同様に、鈴木氏は宮城県の出身である。このネットワークはこれまでの間どのように発展したのか、という質問に対して、鈴木氏は、大災害の半年後に次のように述べている。「私たちのネットワークには、これまでに 22 団体のグループと

Theater der Zeit

Oktober 2011

S. 16-17

97名のメンバーが所属しています。私たちが必要としているのは、活動を長期にわたって継続ないし広げていくことが出来るようになるための、継続的な援助なのです。そのために、私たちはここで歩み始めたのであり、そうなるまでの間、それに対して私たちは責任を負うのです。」

ARC>Tの活動は、まず国内において、東京や大阪の演劇団体によって支援され、それらの演劇団体は自らの演目を利用して、無料で東北地方へと旅立ち、出演した。その上さらに、遠く離れたドイツにあるいくつかの劇場で、日本の東北地方にいる同業者のために寄付金が集められたことは、ARC>Tで活動する人たち一人ひとりに心の底から感銘を与え、彼らに力を与えた。4月には、ベルリンにおいて、自発的に、一つの日本支援のための市民運動グループが、ドイツの国際演劇協会（ITI）の内部に設立された。その目的は、震災に見舞われた日本の地域にいる演劇制作者たちのために、寄付金を募ることである。この呼びかけへの反響は、すでにかなりポジティブであった。つまり、ARC>Tには、事務所の開設や事務所の技術的な設備のために、12,000ユーロが送られた。その間に、多くの（緊急）避難所が閉鎖されている。コンテナ仮設住宅での生活や、“国内亡命”における他の地域での先の知れない運命は、新たな問題を必然的に伴う。ARC>Tの照明家である高橋亜希氏は、9月に、電話で次のように述べている。「今のところ、私たちが7月から今まで完全にボランティアで活動していることはもちろんですが、私たちにはガソリンを買うお金もほとんどありません。しかし、私の最大の不安は、忘れ去られてしまうことなのです！ 1995年の神戸での大震災〔阪神淡路大震災〕によれば、最初の援助の後、人々はあっという間に日常生活へと戻って行きました。けれども、積極的であることは、私たちにとって、何もしないことや内面的・精神的に引き裂かれることよりもましなのです。」

Theater der Zeit

Oktober 2011

S. 16-17

《写真》

左：激励の光景——劇団 OCT/ PASS と NGO セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは共に、1台の中古のトラック“夢とらっく”に乗って岩手県と宮城県を巡回公演し、その結果子どもたちや青少年に力を与えた。この光景は、宮沢賢治の『セロ弾きのゴーシュ』。

(写真提供：セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン (p.16) と ARC>T)

《ARC>T の寄付金振込口座》

銀行名： 三菱東京 UFJ 銀行

支店名： 仙台支店

口座番号：普通預金 0230275

口座名： ART REVIVAL CONNECTION TOHOKU 代表 樋渡宏嗣

(アートリバイバルコネクショントウホク ダイヒョウ ヒワタリヒロツグ)

Bank (銀行名) : The Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ, Ltd.

Branch (支店名) : Sendai Branch

Empfänger (口座名) : ART REVIVAL CONNECTION TOHOKU

Account No. (口座番号) : 314-0230275

Swift Code (スウィフトコード) : BOTKJPJT

Address (住所) : 2-1, Chuo 2-chome, Aoba-ku, Sendai, Miyagi 980-0021 Japan